

令和4年度 子ども園自己評価

幼保連携型認定こども園
千里山やまて学園

内容	状況・振り返り
保育内容について	各年齢、時期、子どもの成長によって、環境（場所、物、人）を変えながら保育をすすめてきました。 乳児は、身体的な機能の成長を促しながら楽しく生活できる環境をつくることができました。 幼児は、マラソンを通して基本的な体力をつけ、様々なことにチャレンジする姿がみられた。 また、子どもが興味や関心をもつことを保育に反映し、一人ひとりが充実した園生活を送れるように実践した。
行事について	伝承的な行事や季節の行事など絵本やペープサートなどの教材を使いながらわかり易く伝えるようにした。
保健・安全指導について	避難訓練では、シチュエーションを変えながら実施。 午睡中、職員の人数が少ないケースなど。それぞれの課題もみつき改善の参考になった。 非常事態にそなえて、日頃から職員の声に注目することの必要性を伝えた。
食事提供について	旬の食材を取り入れながら、日頃食べ慣れないものを口にし、味や食材名を知ることで食の幅を広げた。 3月からパーティーを外したことで友達と食事をする楽しさを味わっていた。
地域貢献について	地域子育て支援（なかよし広場あそぼう Kai）や地区福祉委員が実施する子育てサロンに参加し、地域の親子の子育て支援を実施する 大学生の食糧支援のサポートを実施する。
研修・研究について	園内研修、園外研修に積極的に参加できた。 キャリアアップ研修など個々のスキルに必要な研修を受けることが出来た。

総評

今年度は、新型コロナウイルス感染症による影響も軽減され、制限はあったものの、ほぼ予定通り行事を行うことができた。ただ、飲食を伴う親子行事が実施できず残念だった。次年度は、保護者のみなさまともしっかりコミュニケーションがとれるような行事ができるようにしていきたい。
子どもの体力作りという点では、家庭と連携しながらすすめていきたい。